

# 学園ニュース

富山大学

No.28

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和53年12月18日

## 富山大学工学部構内交通規制の実施と五福構内交通規制の一部変更及び五福構内冬期積雪時の交通規制について

富山大学構内交通対策委員長 本田 弘

### 富山大学工学部構内交通規制の実施について

五福構内の交通規制は本年7月1日から実施されている。委員会は、工学部構内に関しても7月1日を目途に作業をすすめてきたが、学長に工学部構内交通対策に関する報告書を答申したのが7月18日であり、評議会がこれを審議したのが7月21日である。評議会が定めた「富山大学工学部構内交通規制に関する暫定要項」とこれに基づいて決定された「富山大学工学部構内交通規制に関する暫定実施細目」とは、以下に示されているとおりである。

工学部構内における交通規制の実施は10月1日からであり、工学部においてもすでに交通規制が行われている。工学部学生のうち車で通学している学生諸君はもとより、徒歩や交通機関で通学している学生諸君もこの構内交通規制の目的と「暫定要項」及び「暫定実施細目」とをよく理解して、工学部構内の交通規制の実施に協力してほしいと思う。

なお、工学部構内の交通規制と五福構内の交通規制とは、その規制の仕方において、若干相違しているが、これは工学部とそのキャンパスとの事情によるものである。

### 五福構内交通規制の一部変更について

五福構内においては、これまで食堂前及び学生会館前は駐車禁止区域から除かれていたが、掲示等で示されたように、11月1日から食堂前と学生会館前が駐車禁止区域に追加された。これは、食堂前周辺の車の

駐車は生活協同組合の営業の障害となること、また学生会館前周辺の車の駐車は会館への出入りや会館前周辺の通行の支障となること及び会館前の広場は学生・教職員全体が常時憩いうる場所としても確保しておくべきものであること、更に一般的には、車で通勤・通学する本学関係者は所属部局周辺の駐車場や自転車置場あるいは、オートバイ専用駐車場に車輛や自転車を駐車させて構内は歩くという原則を守ってほしいということ、ほぼ以上の理由によるものである。

車で通学している学生諸君は、自動車、オートバイ、自転車等を別図に明示されている二つの駐車禁止区域にも駐車させないようにしてほしい。

また、10月20日付の委員会文書においても触れられているように、構内交通規制が実施されて各部局前は整然とした。しかし、車による騒音は依然として大きく、事故の危険もまた大きいというのが実状である。構内が学園にふさわしい秩序を回復するためには、更にどのような方策を講じた方がよいか、委員会としても引続き検討を重ねていかなければならないが、車で通学する学生諸君が、構内における車の速度は制限以下にすること、自動二輪車・原動機付自転車は専用駐車場に駐車させること及び構内は歩くことという以上の原則を必ず守ることを期待する。

### 五福構内冬期積雪時の交通規制について

冬期積雪時の構内交通規制については、このたび委員会の議を経て、以下のように決定されたので、あわ

せてお知らせする。

× × ×

なお、過日長野県において、本学学生の悲しい不幸な自動車事故が起きた。どのような場所においても、定められている規則は遵守するということへの配慮を不断身につけておくことの大切さを悲しみとともに痛感した次第である。より安全にして静かな学園を確立するために、車で通学する学生諸君はもとより、徒歩や交通機関で通学している学生諸君もそれぞれの「暫定要項」と「暫定実施細目」とをよく理解して、構内交通規制の実施に一層協力することを改めて要望する。

## ●富山大学工学部構内交通規制に関する暫定要項

(目的)

第1条 この要項は、富山大学工学部（以下「本学部」という。）構内における車両（自動車、自動二輪車、原動機付自転車等をいう。以下同じ。）の交通に関し、暫定的規制を行い、構内における歩行者の安全と教育研究のための環境保全を図ることを目的とする。

(入構資格)

第2条 本学部へ入構できる車両は、次に掲げるものとする。

- (1) 本学部の教育研究及び事務に必要な車両
- (2) 職員の通勤及び学生の通学上必要な車両
- (3) 本学部にて用務をもって来学する車両（以下「外来車」という。）
- (4) その他本学部が特に必要と認める車両

2 本学部にて用務のない車両は、構内を通過し、又は駐車することができない。

(運行規制)

第3条 本学部構内で車両を運行する者は、定められた交通方法と交通道徳を守り、歩行者の安全と騒音防止に努めなければならない。

2 本学部構内を運行する車両の最高速度は、20キロメートル毎時とする。

3 本学部構内に区間及び時間等を定め、標識により一方通行、進入禁止及び駐車禁止の措置を執ることができる。

(駐車登録)

第4条 第2条第1項第1号及び第2号により入構し、

駐車をしようとする者は、あらかじめ車両駐車登録書を工学部長に提出し、駐車登録証を受けなければならない。

2 第2条第1項第3号により入構し、駐車をしようとする者は、所定の登録手続を経て、一時駐車登録証を受けなければならない。

3 第2項の規定により駐車登録した者は、駐車登録証を車両の指定された箇所に表示しなければならない。

(駐車禁止区域等)

第5条 本学部玄関前は、公用車、外来車及び図書物品等の運搬のため、やむを得ず運行が必要な車両に限り、一時駐車することができる。

2 消火栓及び消防用防火水槽から5メートルの範囲内に駐車することができない。

(駐車場)

第6条 構内に駐車場を設置し、別に定める方法により使用させる。

(駐車規制)

第7条 第4条の規定により駐車登録した車両は、所定の駐車場以外に駐車してはならない。ただし、所定の駐車場が満車のときは、当分の間、駐車禁止区域以外の場所に駐車することができる。

(冬期積雪等特別対策)

第8条 積雪時並びに本学部の行事等のため、期間を定めて第2条乃至第7条の規定にかかわらず、別段の定めをすることができる。

(交通指導員)

第9条 工学部長は、駐車規制等の対策を円滑に実施するため、本学部にて所属する職員のうちから若干名の交通指導員を委嘱するものとする。

(違反規制)

第10条 警務員及び交通指導員は、違反者に対して口頭の注意、注意書の貼付等必要な措置を執るものとする。

(緊急自動車等の特例)

第11条 この要項は、緊急自動車等については適用しないものとする。

(改正の手続)

第12条 この要項を改正しようとするときは、富山大学構内交通対策委員会（以下「委員会」という。）の議を経るものとする。

(疑義の決定)

第13条 この要項について疑義のあるときは、委員会  
がこれを決定する。

(細目)

第14条 この要項の実施のため、必要な手続等は、委  
員会の議を経て別に定めるものとする。

(事務)

第15条 この要項の実施に関する事務は、工学部事務  
部において行う。

附 則

この要項は、昭和53年10月1日から実施する。

### ●富山大学工学部構内交通規制に関する暫定 実施細目

(趣旨)

第1条 この細目は、富山大学工学部構内交通規制に  
関する暫定要項(以下「要項」という。)第14条の規  
定に基づき、必要な事項を定める。

(駐車登録)

第2条 要項第4条第1項の規定による車両駐車登録  
書(以下「登録書」という。)は、別紙第1号様式に  
よるものとする。

2 前項の登録書の提出先は、別表に掲げるとおりと  
する。

3 登録書を受領した工学部長は、別紙第3号様式の  
車両駐車登録台帳に記載し、別紙第2号様式の駐車  
登録証を交付するものとする。

4 要項第4条第2項の規定により一時駐車をしよう  
とする者は、工学部会計係に備え付けの別紙第3号  
の2様式の一時車両駐車登録簿に記載するものとし  
る。

5 前項の手続きを行った者に対して、工学部長は、  
別紙第2号の2様式の一時駐車登録証を交付するも  
のとする。

6 五福地区の職員及び学生等が、本学部に入構し、  
駐車するときは、富山大学構内交通規制に関する暫  
定実施細目第5条第1項により、五福地区の部局の  
長が交付する許可証をもって駐車登録証に代えるこ  
とができる。

(駐車禁止区域等)

第3条 駐車禁止区域等は、別図(1)に示すとおりとし、  
これを掲示する。

(駐車場)

第2条 駐車場は、別図(2)に示すとおりとし、これを

掲示する。

2 駐車場内の車両の移動は、最除行とし、事故防止  
に努めるものとする。

(冬期積雪等特別対策)

第5条 要項第8条の規定による冬期積雪等特別対策  
は、工学部長が定めるものとする。

(交通指導員)

第6条 要項第9条の規定による交通指導員は、次の  
職員をもって充てる。

(1) 各学科の教官 各1名

(2) 工学部の事務部の各係職員 各1名

2 前項の交通指導員の任期は、1年とし、再任を妨  
げない。ただし、その補欠の交通指導員の任期は、  
前任者の残任期間とする。

3 交通指導員は、次に掲げる措置を講ずるものとする。

(1) 本学部構内における交通に関する指導及び実態調査

(2) 第7条に定める事項

(3) その他本学部構内交通に関し、必要な事項

(違反規制)

第7条 警務員及び交通指導員は、違反車両に対して  
次に掲げる措置を執るものとする。

(1) 違反を現認したとき及び違反者が確認できると  
きは、口頭で注意する。

(2) 運転者が不在の駐車違反車両に対しては、別紙  
第4号様式の注意書を貼付する。

(3) 未登録駐車車両に対しては、別紙第4号の2様  
式の注意書を貼付する。

(緊急自動車等の特例)

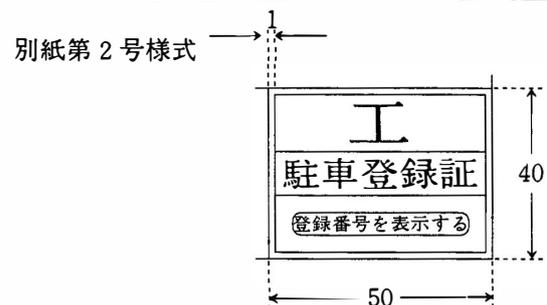
第8条 要項第11条に規定する緊急自動車等は、救急  
車、消防車等をいう。

附 則

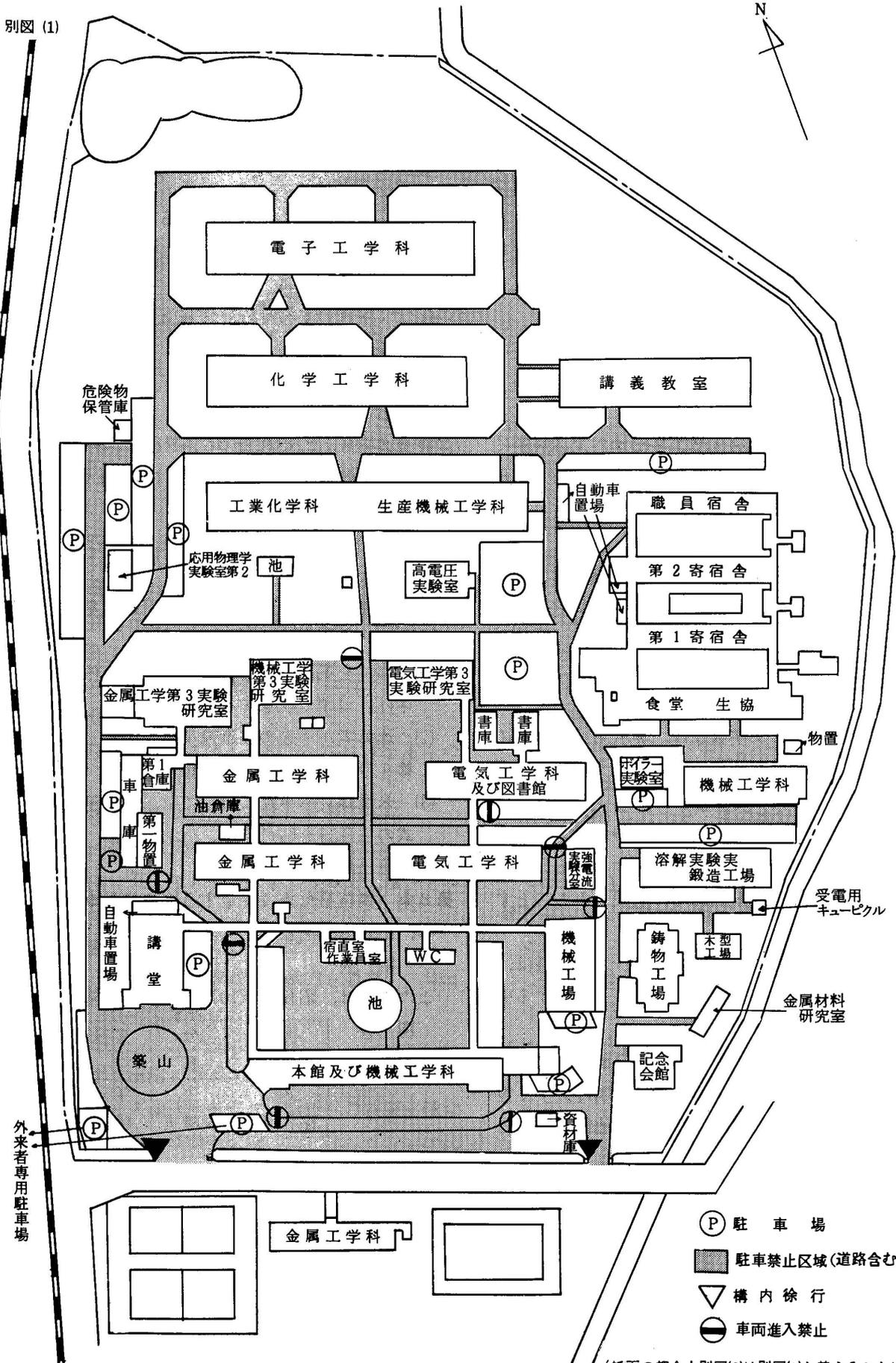
この細目は、昭和53年10月1日から実施する。

別 表

区 分	登録書提出先
職 員	会 計 係
学 生	学 務 係
福利厚生施設職員	学 務 係

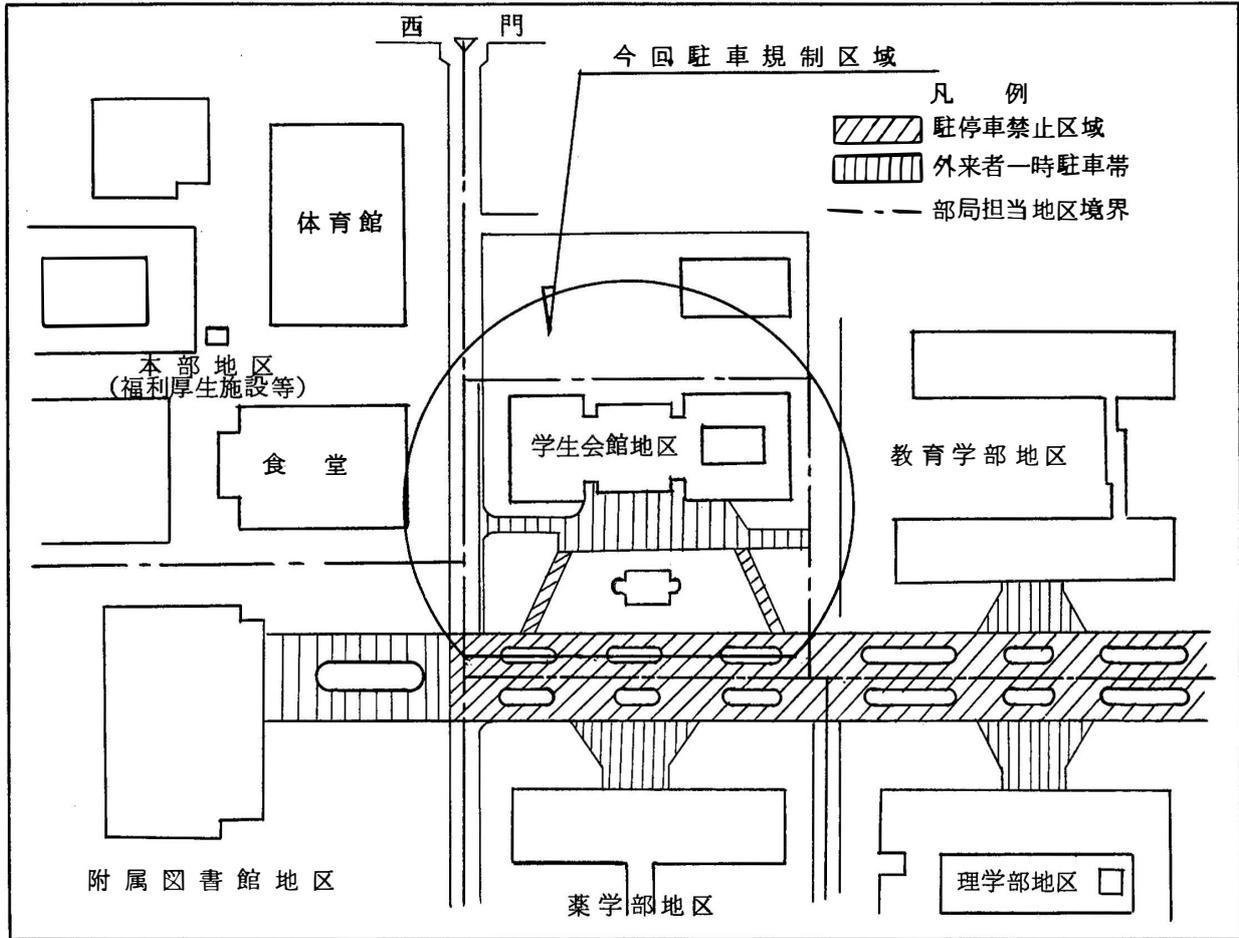


別図 (1)



(紙面の都合上別図(2)は別図(1)と替えることにした。)

## 五福構内暫定実施細目別図



### ●五福構内冬期積雪時における交通規制について

積雪時における本学の除雪能力は、必ずしも充分ではなく、多くを期待することができない。また、気象状況等によって除雪作業が左右されるので、構内交通規制を予め定めることは、困難である。車による通勤、通学者は、以下の事項を守り、冬期積雪時の構内交通規制に協力されることをお願いする。

1. 冬期降雪の時、とくに大雪注意報等が発令されている場合は、車による通勤、通学は自粛する。
2. 駐車禁止区域以外の通路の駐車は、除雪の支障にならないよう注意する。
3. 大雪及び除雪作業等で車の入構を規制したり、禁止したりする場合は予め掲示する。
4. 積雪時は、部局前の外来者用駐車帯に車は駐車させることができるが、その期間は別に指示する。
5. 積雪時は、第一西門への通路（第一体育館横）は、駐車禁止区域とするが、その期間は別に指示する。
6. 夜間は、短大関係者及び管理、研究、教育等に従事する者以外は、構内に車を駐車することができない。また、降雪時においては、翌日にかけての駐車は原則として認めない。
7. 除雪の際、障害となる車は移動させるが、その場合、車に損傷が生じても大学はその責任を負わない。また、車の除去のために費用が必要となる場合の費用は、当該車を所有する者の負担とする。



## 新 任 教 官

- |   |  |
|---|--|
| ○北村 純一 助教授（人文学部） 53.10.1<br>昭46. 3 東京大学大学院人文科学研究科独語独<br>文学専攻修士課程修了<br>担当：ドイツ語学    | ○池野 進 助手（工学部） 53.6.1<br>昭52. 3 大阪大学大学院工学研究科（冶金学専<br>攻）博士課程修了<br>担当：生産機械工学科塑性加工 |
| ○有澤俊太郎 講師（教育学部） 53.10.1<br>昭50. 5 東京教育大学大学院教育研究科博士課<br>程単位取得<br>担当：国語科教育          | ○高安 和子 講師（教養部） 53.10.1<br>昭49. 3 名古屋大学大学院文学研究科（修士課<br>程）修了<br>担当：英語            |
| ○大野 正道 助手（経済学部） 53.8.1<br>昭53. 7 東京大学大学院法学政治学研究科第1<br>種博士課程単位取得・退学<br>担当：社会法（経済法） | ○相原 茂 講師（教養部） 53.10.1<br>昭52. 3 東京教育大学大学院文学研究科（博士<br>課程）単位取得<br>担当：中国語         |

### 新任の弁

人文学部教授 藤 井 一 行

この4月、隣の金沢大学（教養部）から転勤してきました。人文学部では、語学文学科のロシア語・ロシア文学コースを担当します。ロシア語・ロシア文学という学科目は、国立大学では長いあいだ北大にしかありませんでしたが、数年まえにやっと東大に設けられ、ついで、こんど北陸の富山大に新設されることになったものです。教育・研究の両面にわたって先輩格の2大学にひけをとらない体制と内容をつくりあげたいと念じています。

ソ連の内外政策が世界的に不人気であるせいか、日本では、ロシア語学習者の数が全国的に漸減の傾向にあるようです。しかし、19世紀ロシアの古典文学の世界史的地位は、今日でも少しも揺らいでいませんし、こと自然科学にかんするかぎり、ソヴェトの水準は世

界でも一流に達しています。ロシアの文化・言語への関心が高まっていいように思います。

最後に、簡単に自己紹介をしておきます。宮城県に生まれ、岩手県の三陸方面で少年時代を過ごし、青年時代を東京外国語大学（ロシア語学科）と一橋大学大学院（社会学研究科）ですごしました。その後、札幌大学（外国語学部ロシア語学科）に5年勤務し、金沢大に移りました。専門は19世紀ロシア思想史ですが、最近ではソヴェト社会主義論にも手をのばしています。

富山は幸い、すばらしい自然環境にめぐまれていしますので、この好条件をフルに生かしていい仕事をしたいと思っています。



### 富山に来て

人文学部助教授 北 村 純 一

もう2ヶ月になろうとしています。父親がヤクザな商売をしていたもので、——刑事だったのですが——僕は、生まれ落ちてから、十八歳になって親許を離れるまで、実に十三回も引越し、そのため習性となり、二年も一所に住むと転居したくなる程で、どんな所に行っても、すぐにその水に慣れられますので、まして

や水も米も美味しい富山の事、もう完全に慣れきって実に快適に暮らしております。

ただ、必配なのは、あの有名極まりない神通川で、——職場へバスで来る途中に見かけるのですが——よく釣をしている事で、その魚が、いつか僕の食卓に乗るやもしれず、——（なにしろ神通力であんなとてつも

なく非人間的な事を引き起した川ですから、無神論者の僕としても、ここではあの川を見るたびに、神を畏れ)——、おちおちアユなど食べられません。マスズシなども、おっかなびっくり、散々思案した後に、食べております。

しかし、これ以外、(月給の額は別ですが、)今の所、何の不満も、不安もなく、幸運にも良き職場を得たのですから、それにせっかく、越中へやって来たのですから、この禪を締め直し、本業に精を出そうと思っております。紙面を借り、御挨拶まで。

## 富山のことば

教育学部講師 有澤俊太郎

富山へ来て一ヶ月余り経ちました。何かよその町へ引越して来たようですが、ここは私が18年間過ごしたところなのです。近頃はすっかり縁遠くなっていたけれど、学校や家で生活してみると、やはり自分が生まれ育った場所だと感慨深いものがあります。

改めてそういう気持ちにさせられたのは、富山のことばでした。通勤の途中のバスの中や教室で、なつかしいけれども決して忘れたわけではないそのことばを聞いた時でした。私は国語教育を勉強してきたので、一時はアクセントなど徹底的に矯正されたことがあります。自分という人間が変わっていくようでした。けれ

ども共通語というのは、多かれ少なかれ、そういう犠牲の上に成り立っていることばなのかもしれません。それが少しずつ分かってきて納得しておりました。

しかし、共通語では「語る」ことはむずかしいのではないかと思います。ビジネスにはよいが、物語をするには味気ない。おばあさん達がバスの中などで使っていることばの表情豊かなこと。学生の雑談を聞いていてもそうです。私自らは学校では使わないようにしていますが、内心「本当はボクだってできるんだぞ」と思いながら授業を行っております。

☆ ☆ ☆

## 新任にあたって

経済学部助手 大野正道

最近、学術研究に際して、地域主義の復権が唱えられています。これは、各地方や地域の政治、経済、文化等のあり方について、再検討を加えるものです。現時点において、このような研究が必要となるのは、これまでの我国の学術研究が、あまりにも画一化し中央指向の強い体質をもっていたことに、起因しています。もはや、各地方や地域の持つ差異を考慮しないで、日本全体を語ることはできないと考えます。私は、富山県の地域性について研究する者として、条件に恵まれ

過ぎています。富山に生まれ富山で育った私が、学部と大学院生活を東京で過ごした後に、再び富山に生活することとなった訳ですから、この好条件を生かし、少なからぬ研究業績を挙げることが要求されていると思います。

私は、このように地域研究について興味を抱いているとともに、専門である経済法、商法についても今後研究を進めたいと思っていますので、諸先生方の御指導御協力をお願い申し上げます。

## 新任の挨拶

工学部助手 池野進

「戻って来たな」と思いました。新任の挨拶に回った時のことです。九年前と少しも変わっておられない諸先生方や事務の男の方達そして少し年輪を感じてしまった御婦人達。どこに御伺いしても懐かしい顔、顔……。かなり緊張して硬張り気味の笑顔に、温かく、にこやかな笑顔で応えて下さる方達、何だかほっとす

ると共に「戻って来たな」と思いました。

実は夏休みなどには時々帰って大学に顔を出していました。ちっとも変わらない建物なのに、学生さん達は、どんどん変わって行きました。年毎に学生さんがフレッシュに見えるようになったものですが、同時に自分が母校から遠い人間になって行くように感じたも

のです。だから、いざ戻ることになると、ふと不安になりました。私が知っていた母校が変わってしまったように思えて、とても緊張してしまったのです。今も少し緊張しています。古巣に戻っても学生時代と違っ

て呑気でいられないからです。第一、給料をもらう身分になりました。これからが大変です。戻って来たばかりの新参者を少し大目に見ていろいろ教えて下さい。何もかもまとめてよろしく御願います。

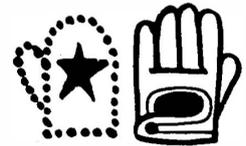
## 新任の弁

教養部講師 高安和子

昨年の秋、私の属する学会の総会が、この富山大学で開催されました。その時、初めて、富山大学へきました。そして、今、私は、その会場の一部にあてられた講義室で、授業を行っています。本当に、感慨無量です。

新しい研究室の窓からは、紅葉の呉羽山が眺められます。大学構内の銀杏の鮮やかな黄、本当に、北陸の秋は、秋という言葉にふさわしいと感じているこの頃です。これから、冬に向かい、厳しい冷気の中で、立山連峰の白銀の美しい、懐かしい姿に会えるのを楽しみにしています。

こちらへ赴任する半月前に、ある先生から、有益な御意見を伺いました。それは、教育方法を考える時、『教え方』と『学び方』の両方を考える必要があるのではないかと、特に、学習方法や研究方法の指導の仕方を、もっと研究する必要があるのではないかと、という意味の御意見でした。私も、いつも、このような問題意識を持って歩みたいと思っています。どうぞ御指導の程よろしくお願い致します。



## 所変われば

教養部講師 相原茂

中国語に‘閑不住 xianbuzhu’という言葉がある。次々と自分の仕事を片づけ、一息入れる間も惜しんで人の仕事も手伝ってやれ。困っている人があれば面倒を見ずにはいられない。行事といえは進んで段取りを引受ける。ともかく、じっとしてられない。こんな人を称して、あの人は xianbuzhu だと言う。「(働らきたくて) のんびりしてられない」ぐらいの意味だ。

この言葉、われわれから見ると、ちょっと皮肉っぽく聞こえるが、そえではない。ほめているのである。

中国人は元来のんびりした民族なのだろう。北京の街角では、何をするでもなく、ただぼんやりと佇んでいる人をよく見る。戸外に椅子をもち出し、そこで何

時間でもおしゃべりを楽しむ。野良で働く人も、大地に向ってゆっくりと鍬をふるう。これでは、しかし、建設も生産もはかどらない。バリバリ働き、テキパキ処理するのが望ましい。かくて xianbuzhu は望ましい人物像となる。

片や、わが日本ではモーレツからビューテフルといわれ、xianbuzhu なのはスタイルとしてはあまりはやらない。むしろ、どこか大陸的な悠然たる雰囲気好まれる。

どちらも、珍しいものは価値がある。所変われば評価も変わる。ここ富山ではどうなのかしらん。

中国語を教えます。どうぞよろしく。

## J・デアボラーフ教授を招いて講演会

教育学部において、下記の要領で講演会を実施した。

1. 講師 西ドイツ、ボン大学哲学部教授 ヨーゼフ・デアボラーフ氏
2. 演題 教育的徳性の本質について  
(通訳 教育学部教授 藤井敏孝)

3. 日時 昭和53年11月11日(土) 午後2時から4時まで
4. 会場 富山県教育記念会館(富山市千才町1-5-1)
5. 主催 富山大学教育学部

来聴者は学生を含めて約70名、県内各学校の現職教員が多かった。

教育者の職能の重要性が論議されている今日において、教育技術の習熟の必要なことは論を俟たないが、その基底を支えるものとしての教育的徳性すなわち教

育者という特殊な職業が要求するエートスあるいは有能性を、アリストテレスのいうアレテーの概念と対応させて、教育者の使命に規定される権威、教育的愛、教育的タクト、そして最後に教育的ユーモアをあげて、教育という仕事の道徳的側面を論究し、教育実践は教育技術と同一視されるべきでないことを強調した。(教育学部 藤井記)

☆ ☆ ☆

## 西ドイツに留学して

中学校教員養成課程(音楽) 西 嶋 洋 子

文部省の教員養成大学学部学生海外派遣制度により52年10月から53年の7月までの10か月間、私は、ドイツ連邦共和国のロイトリンゲン教育大学(Pädagogische Hochschule Reutlingen)で、音楽教育について学ぶ機会をえることができました。

ロイトリンゲンは、西南ドイツに位置するバーデン・ビュルテンベルグ(Baden-Württemberg)州の中にある。人口約9万人の町です。州都であるシュトゥットガルト(Stuttgart)から快速列車で、南へ約1時間のところにあります。ドイツでは連邦制がとられており、それぞれの州が、議会・政府・法律をもっていて、州というよりも国家を形成しているといっただいほど、地方自治が強いというのが特徴です。この地方を重んずるという考えは、文化や芸術の面にも反映されています。ロイトリンゲンにさえも、町が運営しているオーケストラがありますし、この町から1時間で、シュトゥットガルトのオペラ劇場で、観劇できるのですから、全てが東京に集中しているわが国のことを考えれば、うらやましい限りです。

ロイトリンゲンには、教育大学を含めて3つの大学があります。これらの大学へ通っている学生が入ることのできる学生寮(Studentenwohnheim)に、私は住んでいました。ここには、ドイツ人学生ばかりでなく、外国人留学生(ギリシャ、トルコ、東南アジア、アフリカから)も多く住んでいました。彼ら(留学生)は、ほとんどが、専門技術大学(Fachhochschule)で、機械、繊維などの技術を学んでいるのです。教育大学には、アメリカからの3か月間の留学生をのぞいて、ほとんど外国人学生はいません。ですから、私はドイツ人学生ばかりと付き合いました。彼らは、高校(Gymnasium)の9年生のときに大学入学資格試験(Abitur)を受けて、

合格し、それぞれの希望の大学・学部・学科に入るわけですが、男子の場合は、まず1年半の兵役義務か、もしくは、病院や老人ホームでの奉仕活動を終えてから、入学してくる人が増えてきているようです。18歳以上になると、もう1人前の大人として扱われ、精神的にも親から完全に独立した存在であるべきだという考えが一般的です。そのためか、同年代であるはずなのに彼らが大へんしっかりしているように見えます。大学では教養部はなく、専攻教科だけを学んでいます。最初の3学期までは、比較的余裕があるようですが、4、5、6学期の学生は、試験(Prüfung)や論文(Zulassungsarbeit)があるために、目の色が変わってくるのです。試験は1度落第すると追試を受けることができますが、もし2回共、落第してしまうと退学にされてしまいますので、必死で勉強しているようです。4、5、6学期の学生たちの会話も、休暇や遊びのことなどよりも、試験や成績のことが主になってきます。しかし、これが休暇ともなると、とくに夏休みは、仲間数人で近くはフランス、スイス、オーストリアなど、遠くは、ギリシャやイスラエルまでもテントを持って車で出かけ、そこで、2、3、4週間過ごすのです。人々は夏になると太陽を求めて、各地へ散っていきませんが、これは、気候のせいでもあります。とにかく1年を通じて夏以外は、晴天の日が大へん少なく、冬などは、日が短くなるのも手伝って気が変になるかと思うほど人間の心を暗い気持ちにさせるのです。5月の終わりごろから、ようやく花々が咲き始め、6月ともなると、各家庭の庭に植えてあるバラが狂ったように咲き、灰色の冬とは対照的です。今年の夏は異常気象で、6、7月の気温が18℃ぐらいいまだか上がらず、毎日のように雨が降っていました。セーターを、帰国

するちょっと前まで着ていたくらいです。

ドイツでの10か月間は、言葉や食事、それとドイツ人ばかりの中での生活からくる孤独や気疲れとの戦いの連続で、楽しいことよりも苦しいことの方がずっと多かったように思いますが、それだからこそ、私にとっては、貴重な人生勉強になったのではないかと思います

\*

\*

\*

## 学部だより

### ●工 学 部

#### 二大会開催される

鉄鋼協会第96回及び日本金属学会第83回の合同秋季大会は、去る10月3日から5日の3日間、教養部棟の24会場に図書館学生会館なども加えてのマンモス大会として、両会合計1000件を越す研究発表に米国からの特別講演2件等を加える国際色の豊かさの中に、全日2000名を越す参加者を集めて盛会裡に終始した。この会の開催は前回から数えて14年ぶりとのこと、養田教授を実行委員長に教養部佐藤教授をはじめ金属、生産機械両科の各位の努力が実った大会であった。

一方、富山大学開催は史上初めてという日本機械学会第56期全国大会は、次週の11、12の両日を、これも同じく教養部棟に18会場を設けて行われ、研究発表合計403件、内外の研究者技術者の参集延べ2000名を越す盛会で、教育学部長坂井教授の“富山藩について”の特別講演も参会者に多大の感銘を与えた模様であり、実行委員長の宮尾教授、教育学部の吉岡助教授をはじめ、機械、生産機械両学科ほかの関係各位の精進が大いに報われる大盛會であった。

ところで、工学部恒例、秋の教職員各科対抗バレーボール大会は、10月17日から20日の間好天に恵まれて試合が進められたが、そこは上記両大会にハッスルした生産機械工場チームが工化・金属チームを2対0で破って優勝、かくして、新2年生の専門課程移行を迎えた工学部高岡キャンパスは、秋深まりゆく中を53年度後期の授業に入ったのであった。(沢島)

### ●教 養 部

教養部校舎新営が去る10月31日に竣工したことは既にご存知のことと思いますが、これは文理学部改組に

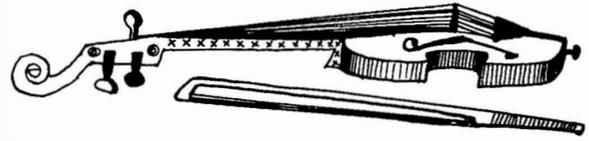
ています。

いつか、もう1度、ドイツで生活する上で、いろいろと援助して下さった、シュティーフェル教授(Prof Stiefel)御夫妻やマオラー教授(Prof Maurer)御夫妻、それに、私の友人や知人を訪ねることができればと考えています。(昭和53年11月23日)

伴うもので旧文理校舎は人文学部となり、従って同居していた教養部教官研究室及び教室は、人文学部へ振替えられ、別に教養部校舎(研究棟)の新営となった次第です。

工事は国庫債務負担行為による2会計年度にわたるもので、52年度末に契約、53年度(10月31日)竣工という工期で着工されました。建物は鉄筋コンクリート4階建(一部2階建)、延べ1672,86㎡で教官研究室32、非常勤務講師室1、普通教室3、(50人収容2、150人収容1)となっています。今回の新営において、窓は総て防音サッシが使用されており、従来の校舎に見られないものです。これは建物が道路側に接近して配置され、自動車等の騒音が研究上著しく障害となるので、これを緩和するために使用されたものです。校舎は竣工後ただちに引渡しが行われ、早速移転に取組んだわけですが、移転開始に先立って10月中旬頃から準備段階として、教官は授業や研究を行う傍ら、各自室の搬出物の荷造りや、研究資料等の整理、新しい移転先研究室の室内配置等の雑務に追われて大変な苦勞があり、一方事務系職員もまた、移転の作業手順や、作業の実施要領の作成、配布及び打合せ等に毎日遅くまで準備作業を行ってきました。幸いにも移転作業は順調に進行し、予定どおり11月中旬にはおおむね完了することが出来ました。これは教職員各位の協力があったからこそ円滑に終了することが出来たものと思います。また同じ苦勞でも移転の苦勞には別の意味において一種の楽しみというか、よろこびみたいなものがあると思います。それは家を新築し引越経験のある方でしたらおわかりになると思いますが、引越の苦勞は大変なものですが、新居に移った時の気分はまた格別な良さがあり、むしろ快適な居心地が引越時の苦勞を一気に吹飛ばしてくれます。教官はもとより学生諸君も新しい教室での講義は快適であるに違いありません。移転が一段落して思うことは、このような立派な校舎を引継いだ私達は教育の場である校舎をいつまでも快

適な環境に維持保全するよう努めなければならないとともに学生諸君もまた常に環境の美化に心がけられるよう願ってやみません。



● 学 生 部

昭和53年度 授業(後学期)日程表

53. 4. 1

学 部 等	学 年	授 業(補講を含む)	期 末 試 験	冬 期 休 業	備 考
教 養 部	1	10/16 ~ 12/23 1/16 ~ 2/22	2/23 ~ 3/1	12/25 ~ 1/15	
文 理 学 部	3, 4	10/16 ~ 12/23 1/16 ~ 2/19	—	12/25 ~ 1/15	試験は授業終了後各専攻ごとに行う
人文学部・理学部	2	10/16 ~ 12/23 1/6 ~ 2/19	—	12/25 ~ 1/15	”
教 育 学 部	2, 3, 4	10/26 ~ 12/27 1/8 ~ 2/17	2/19 ~ 2/24	12/28 ~ 1/6	教育実習 9/8 ~ 10/25
経 済 学 部	2, 3, 4	10/16 ~ 12/23 1/8 ~ 2/14	2/15 ~ 2/24	12/25 ~ 1/6	
薬 学 部	4	{ 4/24 ~ 3/3 } 卒 業 研 究		12/27 ~ 1/15	
工 学 部	2, 3, 4	10/16 ~ 12/23 1/16 ~ 2/27	—	12/25 ~ 1/15	試験日は指定しない

\*

\*

\*

**保健管理センターだより**

スポーツ・体育実技などの予備検診について

今年度前期に本学保健管理センターで実施したスポーツ・体育実技に関する予備検診の結果は、次の通りです。すなわち、実施回数は7回、受検者総数は299名であり、そのうちの約一割、27名が要再検と判定されました。再検を必要とされた者についてみますと、20名は蛋白尿、6名が循環器の異常所見、残り1名は貧血の疑いとなっています。

ところで、当センターでは、異常所見を発見した場合、通常次のような事後処置をとっています。まず、蛋白尿については、検診の翌日から早朝尿を4日間検査します。これは、若者によくみられる一過性の蛋白尿を本当の腎機能障害から鑑別するのが主なねらいです。このようにして、上記20名については、結局1名が行事参加を差し止められました。また、循環器所見がみられた場合は、心電図検査などを専門医に診てもらい、ケースによっては他の専門医療機関で検査という順になっています。該当者6名については、1名が行事の参加停止、3名は充分注意のうえで参加を許されています。

以上のように、第一次の検査で何らかの異常が認め

られた者が約一割にのぼること、精密検査の結果2名が行事参加を止められたことなどを考慮すると、予備検診の意義は決して小さくはないことがわかりただけだと思います。

ただ、ここで注意を要することが二点あります。その一つは、既にお気付きのとおり、《検診はただ一回の儀式で終わるものではない》ことです。異常所見のある人の事後処置がもっとも大切なのです。したがって、責任ある検診には事後処置に伴う一定の期間が必要となります。当センターでは、予備検診の受付は診断書を必要とする日時の三週以前の者に限っていますが、これには上述の事情があるからです。次に、診断書の効果の問題です。診断書に記されている『異常なし』の判定は、検診の最終結果に特別な病的所見が認められなかったというものです。したがって、『異常なし』といっても、どのような身体的負荷にも耐えられるということの意味するものではありません。スポーツなどにおいては、気象・環境条件、行為者の条件など、予測不能な要因の関与するところが大きいのです。ですから診断書の『異常なし』は、行事当日には副次的な役割しか持ち合わせていません。こういった事柄を充分理解なさったうえで、予備検診の意味を再吟味下さいますよう、お願いいたします。

## 保健管理センター利用状況調

### (1) 病類・学部・男女別

(昭和52.4～53.3)

病名	学部		文 理		教 育		経 済		薬 学		工 学		教 養		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
風 邪	145	48	38	66	157	2	516	422	226	0	209	84	1,291	622		
胃・腸の疾患	36	19	11	40	55	0	272	222	106	0	131	64	611	345		
打撲・捻挫・突き指	35	11	31	58	88	5	226	174	78	0	177	67	635	315		
切傷・擦過傷・刺傷	107	25	33	101	92	0	207	181	211	0	180	105	830	412		
眼の疾患	19	7	14	15	11	0	50	91	34	0	14	22	142	135		
歯・口腔の疾患	10	4	2	14	26	0	186	170	14	0	15	4	253	192		
皮膚の疾患	3	3	4	13	11	0	185	165	9	0	14	11	226	195		
火 傷	7	8	3	13	4	0	53	72	38	0	9	7	114	100		
耳・鼻の疾患	1	0	1	2	9	0	42	17	6	0	5	4	64	23		
貧 血	1	1	1	8	1	0	22	52	6	0	1	7	32	67		
健康相談	3	4	1	10	15	0	432	389	12	0	2	0	465	403		
そ の 他	3	2	1	4	6	0	49	57	99	0	3	4	161	67		
休 養	3	2	0	3	1	0	41	41	12	0	0	1	57	47		
検 査	血 圧	1	2	5	2	4	0	3	0	0	0	10	3	23	7	
	検 尿	4	1	1	17	2	0	2	1	2	0	15	22	26	39	
計	378	137	146	366	482	7	2,286	2,054	853	0	785	405	4,930	2,969		
利用回数(1人当)	0.08	0.03	0.03	0.08	0.10	0.001	0.50	0.45	0.18	0	0.17	0.08	1.08	0.65		

### (2) 学生相談

項目	件数	件数	延人数
修学・性格に関するもの		37件	101人
健康・精神医学に関するもの		24	292
そ の 他		5	12
計		66	405



弓 道 競 技

## 第30回北陸四大学学生総合体育大会団体成績一覧表

	種 目	優 勝 杯	1 位	2 位	3 位	4 位	
男	陸上競技	金沢大学長杯	金沢	富山	富医	福井	
	野 球	富山大学長杯	富山	金沢	福井		
	庭 球	富山県体育協会長杯	金沢	富山	福井	富医	
	軟式庭球	石川県知事杯	富山	金沢	福井	富医	
	卓 球	金沢市長杯	金沢	福井	富山	富医	
	バドミントン	福井市長杯	金沢	福井	富山	富医	
	バレーボール	福井県知事杯	金沢	福井	富山	富医	
	サッカー	石川県知事杯	金沢	富山	福井	富医	
	ラグビーフットボール	富山県知事杯	金沢	福井	富山		
	剣 道	福井県議会議長杯	富山	金沢	福井	富医	
	柔 道	富山県議会議長杯	富山	金沢	福井		
	バスケットボール	福井大学長杯	金沢	福井	富山	富医	
	水 泳	福井大学学生部長杯・金沢市議会議長杯	福井	金沢	富山		
	ヨ ッ ト	石川県議会議長杯	富山	金沢	福井		
子	準硬式野球	福井大学父兄後援会杯	金沢	福井	富山		
	ハンドボール	金沢大学長杯	富山	金沢	富医 富福		
	空 手 道	福井市長杯	福井	金沢	富医		
	弓 道	富山大学長杯	金沢	富山	福井		
	体 操	福井市議会議長杯	金沢	福井			
	自 動 車	金沢大学長杯	富山	金沢	福井		
	女	陸上競技	富山県体育協会長杯	金沢	福井	富山	富医
		庭 球	石川県議会議長杯	福井	富山	金沢	富医
		軟式庭球	福井県体育協会長杯	金沢	福井	富山	
		卓 球	石川県体育協会長杯	富山	福井	金沢	富医
バドミントン		福井県教育委員会杯	金沢	福井	富山	富医	
バレーボール		富山大学後援会長杯	金沢	富山	福井	富医	
バスケットボール		富山市議会議長杯	金沢	福井	富山	富医	
ソフトボール		井村杯・北信越ソフトボール協会旗	—	—	—	—	
弓 道		小杉スポーツ杯	富山	金沢	福井	富医	
剣 道		金沢大学長杯	富山	金沢	福井	富医	
体 操		福井市議会議長杯	金沢	富医	福井		

## 昭和53年度 後学期専門移行者調

〔53.10.1付〕

学部・学科 入学年度	専門教育課程移行者数					移行不許 可者数	移行対象 者数
	49	50	51	52	計		
文理学部文学科		1	3		4	5	9
文理学部理学科		1	3		4	13	17
計		2	6		8	18	26
人文学部人文学科				71	71	6	77
人文学部語学文学科				70	70	7	77
計				141	141	13	154
小学校教員養成課程				131	131	5	136
中学校教員養成課程			3	50	53	3	56
養護学校教員養成課程				21	21		21
幼稚園教員養成課程				27	27		27
計			3	229	232	8	240
経済学部経済学科			4	92	96	21	117
経済学部経営学科		1	7	104	112	25	137
計		1	11	196	208	46	254
理学部数学科				31	31	1	32
理学部物理学科				34	34	6	40
理学部化学科				36	36	3	39
理学部生物学科				24	24	6	30
理学部地球科学科				25	25	4	29
計				150	150	20	170
薬学部薬学科						1	1
薬学部製薬化学科		1			1		1
計		1			1	1	2
工学部電気工学科				44	44	8	52
工学部工業化学科			7	45	52	1	53
工学部金属工学科			7	35	42	6	48
工学部機械工学科			4	44	48	10	58
生産機械工学科		1	2	31	34	9	43
工学部科学工学科	1	1	4	34	40	4	44
工学部電子工学科			2	29	31	12	43
計	1	2	26	262	291	50	341
合計	1	6	46	978	1,031	156	1,187

## 昭和52年度 卒業生進路（就職）状況

学 部	学 科 課 程	項 目 別		卒業者数		就 職 希 望 者 数		就 職 不 希 望 者 数		就 職 者 数		未 就 職 者 数		就 職 率 (%)	
						男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
文 理 学 部	文 学 科	24	52	16	48	8	4	11	43	5	5	68.8	89.6		
	理 学 科	78	31	65	26	13	5	50	21	15	5	76.9	80.8		
	計	102	83	81	74	21	9	61	64	20	10	75.3	86.5		
教 育 学 部	小 学 校 教 員 養 成 課 程	9	126	7	124	2	2	6	111	1	13	85.7	89.5		
	中 学 校 教 員 養 成 課 程	17	31	17	27	0	4	15	23	2	4	88.2	85.2		
	養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	2	19	2	19	0	0	2	17	0	2	100	89.5		
	幼 稚 園 教 員 養 成 課 程	0	31	0	31	0	0	0	25	0	6	/	80.6		
	計	28	207	26	201	2	6	23	176	3	25	88.9	7.6		
経 済 学 部	経 済 学 科	105	10	97	9	8	1	96	7	1	2	99.0	77.8		
	経 営 学 科	84	12	81	10	3	2	79	9	2	1	97.5	90.0		
	計	189	22	178	19	11	3	175	16	3	3	98.3	84.2		
薬 学 部	薬 学 科	8	45	4	38	4	7	3	37	1	1	75.0	97.4		
	製 薬 化 学 科	23	24	7	19	16	5	7	19	0	0	100	100		
	計	31	69	11	57	20	12	10	56	1	1	90.9	98.2		
工 学 部	電 気 工 学 科	52	0	46	0	6	0	45	0	1	0	97.8	/		
	工 業 化 学 科	33	1	26	1	7	0	26	1	0	0	100	100		
	金 属 工 学 科	34	0	25	0	8	0	25	0	0	0	100	/		
	機 械 工 学 科	44	0	39	0	3	0	39	0	0	0	100	/		
	生 産 機 械 工 学 科	23	0	19	0	3	0	19	0	0	0	100	/		
	化 学 工 学 科	36	0	29	0	7	0	28	0	1	0	96.6	/		
	電 子 工 学 科	43	0	30	0	12	0	28	0	2	0	93.3	/		
	計	265	1	214	1	46	0	210	1	4	0	98.1	100		
合 計		615	382	510	352	100	30	479	313	31	39	93.9	88.9		

# 産 業 別 就 職 状 況

産 業 別		学 部			文 理 学 部			教 育 学 部			経 済 学 部			薬 学 部			工 学 部			合 計			
		性 別			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
第 二 次 産 業	建 設 業	2	2	4							3	0	3	0	1	1	10	0	10	15	3	18	
	製 造 業	食料品・たばこ製造業										5	0	5	0	1	1	7	1	8	12	2	14
		織 維 工 業	1	0	1							0	1	1				5	0	5	6	1	7
		衣類・その他の繊維製品																					
		出版・印刷同関連産業	1	1	2							0	1	1				1	0	1	2	2	4
		化 学 工 業	5	4	9							3	1	4	2	13	15	19	0	19	29	18	47
		鉄 鋼 業	0	1	1													2	0	2	2	1	3
		非鉄金属製造業																5	0	5	5	0	5
		金属製品製造業	1	1	2							4	1	5				16	0	16	21	2	23
		一般機械器具	1	0	1							5	0	5				20	0	20	26	0	26
		電気機械器具	0	2	2							5	1	6				35	0	35	40	3	43
		輸送用機械器具	0	1	1							1	0	1				9	0	9	10	1	11
		精密機械器具	1	0	1													9	0	9	10	0	10
		その他の製造業				0	1	1	5	0	5							14	0	14	19	1	20
		計	12	12	24	0	1	1	31	5	36	2	15	17	152	1	153	197	34	231			
第 三 次 産 業	卸売・小売	卸 売 業	2	1	3							18	1	19	2	1	3	6	0	6	28	3	31
		小 売 業	2	6	8	0	4	4	17	2	19	2	8	10	14	0	14	35	20	55			
	金融 保 険 業	銀 行 ・ 信 託 業							48	0	48										48	0	48
		証券業・商品取引業	0	1	1	0	1	1	6	0	6										6	2	8
		保 險 業	1	0	1				7	0	7										8	0	8
		その他の金融・保険業							2	0	2										2	0	2
	運 輸 ・ 通 信	運 輸 業	1	1	2							1	0	1				4	0	4	6	1	7
		通 信 業																2	0	2	2	0	2
	サ ー ビ ス 業	電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	0	1	1	0	3	3	3	0	3							4	0	4	7	4	11
		医 療 保 険 業	2	0	2										3	26	29	1	0	1	6	26	32
		法 務				0	1	1													0	1	1
		教 育	37	33	70	21	152	173	0	1	1	0	4	4							58	190	248
		非 営 利 的 団 体	1	2	3	0	1	1	0	1	1	1	1	2							2	5	7
		その他のサービス業	2	5	7	0	5	5	14	5	19							14	0	14	30	15	45
		公 務	国 家 事 務	0	1	1				7	0	7							1	0	1	8	1
地 方 事 務			1	1	2	2	7	9	20	1	21	0	1	1	12	0	12	35	10	45			
計	49	52	101	23	174	197	143	11	154	8	41	49	58	0	58	281	278	559					
上 記 以 外 の も の					0	1	1	1	0	1										1	1	2	
合 計		61	64	125	23	176	199	175	16	191	10	56	66	210	1	211	479	313	792				

## 昭和54年 3月卒業予定者の求職・就職の状況

昭和53年11月末現在

項目 性 学部名 別	1 卒業予定 者 数	2 1のうち 進学希望 者 数	3 1のうち 求職者数	4 3のうち 就職(内定)者数			5 就職率 %	6 1のうち 自家営業 希望者	7 1のうち 意思表示 のない者	
				計	県内	県外				
文理学部	計	204	27	161	15	3	12	9.3	0	16
	男	138	23	102	10	2	8	9.8	0	13
	女	66	4	59	5	1	4	8.5	0	3
教育学部	計	234	1	233	0	0	0	0	0	0
	男	46	1	45	0	0	0	0	0	0
	女	188	0	188	0	0	0	0	0	0
経済学部	計	239	4	225	174	40	134	77.3	7	3
	男	231	4	220	172	38	134	78.2	6	1
	女	8	0	5	2	2	0	40.0	1	2
薬学部	計	117	37	76	38	14	24	50.0	0	4
	男	47	28	18	9	2	7	50.0	0	1
	女	70	9	58	29	12	17	50.0	0	3
工学部	計	335	32	282	232	87	145	82.3	0	21
	男	334	32	281	232	87	145	82.6	0	21
	女	1	0	1	0	0	0	0	0	0
合 計	計	1,129	101	977	459	144	315	47.0	7	44
	男	796	88	666	423	129	294	63.5	6	36
	女	333	13	311	36	15	21	11.6	1	8

